

第31回 *National Trust Conference*

# ナショナル・トラスト

次に伝えよう、美しい風景 全国大会 報告書

写真 竹田津実

2014年 32日(日) 14:00 開会 [会場] 主婦会館プラザエフ [主催] (公社)日本ナショナル・トラスト協会 [後援] 環境省、東京都環境局

ナショナル・トラスト全国大会は、広く市民や企業の皆様にナショナル・トラストで自然や歴史的環境を守ることの意義に触れていただき、活動への理解を深めていただくことを目的に開催しています。

31回目を迎える今年のテーマは「次に伝えよう、美しい風景」。次世代に伝えたい風景として、北海道の「オホーツクの村」や台湾の「シロイルカ」（種名：シナウスイロイルカ）や駅舎のある風景を守り、次世代に伝えていく取り組みについてお話をしていただきました。また、税制の視点から資産を公益的な活動に生かす方法とその事例をご紹介いただくなど、皆様にナショナル・トラストという選択肢について、より具体的に考えていただく機会として開催いたしました。



## プログラム

### | 第一部 |

- |       |       |  |
|-------|-------|--|
| 14:00 | 開会挨拶  | (公社) 日本ナショナル・トラスト協会 会長 池谷 奉文   |
| 14:05 | 来賓挨拶  | 環境省 大臣官房審議官 奥主 喜美氏   |
| 14:10 | 講演    | 「キタキツネからの伝言」 随筆家・写真家・獣医師 竹田津 実氏  |
| 15:00 | 休憩    |  |
| 15:10 | 話題提供1 | 「台湾のナショナル・トラストについて」<br>台湾ナショナルトラスト理事長・国立清華大学教授 王 俊秀氏<br>彰化環盟理事長 蔡 嘉陽氏<br>八頭里仁協会理事長 戴 秀芬氏 |
|       | 話題提供2 | 「税控除で資産を次世代のために活かす方法」<br>税理士・行政書士 早坂 毅氏  |
|       | 話題提供3 | 「アマミノクロウサギ・トラスト・キャンペーン結果報告」<br>(公社) 日本ナショナル・トラスト協会 事務局長 関 健志                             |
| 16:45 | 閉会挨拶  | (公社) 日本ナショナル・トラスト協会 副会長 漆畑 信昭  |

### | 第二部 |

- |               |                  |                                |
|---------------|------------------|--------------------------------|
| 17:00 ~ 19:00 | ナショナル・トラスト交流会    |                                |
|               | ・設立40周年にあたってのご挨拶 | (公財) 天神崎の自然を大切にする会 代表理事 初山 丈夫氏 |
|               | ・各地域の団体からの近況報告   |                                |

## 第一部

本日はお忙しい中、全国からナショナル・トラスト全国大会のためにお集まりいただきありがとうございます。本大会の開催にあたり、ご後援いただいた環境省、東京都環境局をはじめ、ご支援いただいた多くの企業・団体の皆様に深く感謝申し上げます。また、今年度は奄美大島のアマミノクロウサギの生息地、約100haを、日本全国の皆様のおかげをもちまして、無事に買い取ることができました。

今、世界では、私たち大人だけの社会ではなく、子どもたちや将来世代のことを考えた持続可能な社会づくりが最大の課題になっています。そのベースとなるのが人

今年で第31回目となります全国大会が、こうして盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。日本ナショナル・トラスト協会は、その前身の「ナショナル・トラストを進める全国の会」から30年以上にわたり、我が国のナショナル・トラストの全国組織として、各地の活動を支援してこられました。また、全国の活動団体の交流の場として、本日のような全国大会を開催されるなど、我が国のナショナル・トラストの更なる飛躍を目指して取り組んでこられたことに、深く敬意を表したいと思います。

環境省では、すぐれた自然の美しい風景地を次の世代に引き継ぐために、国立公園などの保護地域

間の生存基盤となる自然環境をどう守るかです。国土の67%が森林ですが、実は多くが「材木の畑」になっていて、健全な自然は非常に少なく、戦後失ってきた自然をどう取り戻していくかが、今の日本に課せられた大きな課題だと思います。もちろん経済も重要ですが、自然や伝統と共存する美しい社会をつくるという原点を、今一度思い直してみる必要があると思います。それとともに、世界、特に東南アジアなど日本の近隣諸国との連携が大変重要だと思います。世界の国々も、国づくりのベースである自然環境を守るという最大の課題は同じですから、お互いに知恵を出し合って、将来を

の指定や保護管理の充実を図っていますが、特に奄美・琉球では、世界自然遺産登録に向けた取り組みを進めています。「アマミノクロウサギ・トラスト・キャンペーン」は、その大きな後押しになるもので、大変感謝しております。美しい風景の維持や、希少種の保護など、生物多様性保全への取り組みを着実に進めていくためには、市民・事業者の方々を含む多くの主体との連携が不可欠です。ナショナル・トラスト活動は、行政の施策と連携しながら、美しい風景地や豊かな生態系を次の世代につないでいく大変重要な取り組みです。環境省としても、今後のナショナル・トラストの促進において、できる限りの努力をしてい

### 開会挨拶



公益社団法人  
日本ナショナル・トラスト協会 会長

### 池谷 奉文

見据えた活動をしていきたいと考えています。

これからも、日本が美しい国になるように頑張っていきたいと思っていますので、ご支援の程よろしくお願いたします。

### 来賓挨拶



環境省 大臣官房審議官

### 奥主 喜美 氏

きたいと考えています。

最後に、全国各地からお集まりいただいた皆様をはじめ、ナショナル・トラスト活動に関わっておられる皆様のご活躍を、そして我が国のナショナル・トラスト活動のますますの発展を祈念し、本日の私の挨拶に代えさせていただきます。

講演



随筆家・写真家・獣医師

竹田津 実氏

### 「オホーツクの村」の起こり

「オホーツクの村」は、残すべき価値という点では、いわゆる本来のナショナル・トラスト運動から最もかけ離れているとも言えます。今から35年ほど前、約32haの人工林が畑にされるというのを聞きつけ、その土地を買ったことがすべての始まりです。4,200万円の土地を買うために、連名でお金を借りました。そこに名を連ねたのが、「花の18人衆」でした。

北海道に渡ってキツネの調査を始めた頃、エキノコックスが発生し、キツネは退治される方向に進んでいました。僕が調査した限りでは、キツネが直接人間に虫卵を運ぶことはほとんどないことがわかりましたが、それを主張するためのデータが揃うまで時間稼ぎをしたい。そこで「キタキツネ物語」という映画を作ることになりました。その時、小清水での封切りパーティの発起人が18人いて、それが「花の18人衆」です。そして、このまま解散するのはもったいな

# キタキツネからの伝言

いと「小清水自然と語る会」を結成しました。ちょうどその頃、その人工林が売りに出されたのです。

### 「オホーツクの村」での活動

「オホーツクの村」はすべて人工林ですから、ナショナル・トラストの大命題からはそれてしまうのですが、とにかく我々の故郷を守りたかった。あの手この手で、全国から500人の賛同者を集め、さらに18ha買いました。そして、活動を始めて20年の記念にセミナーハウスを造りました(写真右)。奥の方に野生動物の診療センターもあります。手前の池も自分たちで造りました。この池は、リハビリステーションから、大型の水鳥が飛び立つのに必要な85mの滑走路になります。

買った土地は人工林なので何でもできます。余分な木を切り、80年の植生復元計画を立てました。年に一度の盛大な村祭りも開催しています。これは、全国の支持者にこうした機会を設けて、植林などもしてもらい、この村での楽しい生活を感じてもらうために開催しています。また、森の危険な部分も体験させようと「子どもの王国」造りも行いました。巣箱も多い時で400個ほどかかっており、

子どもたちが見たいと言えば、すべて覗かせ、手を突っ込んで触りたいと言えば、触らせます。ほとんどの子が「かわいい」ではなく、「温かい」と言いました。鳥は温かいという感覚を持ってくれただけで、私たちの仕事は成功です。



### キタキツネとの共存

当時は、キツネが家の敷地内に入ってくると即エキノコックスにかかるといって話がごく普通にありました。しかし、キツネは悪者ではないことをわかってもらいたかった。そこで、いろいろな調査をした結論が「飼い犬」でした。飼い犬がキツネの穴にもぐり込み、体にたくさん虫卵を付けたまま家に帰るのです。調べてみたら、家庭





の中から、虫卵が出てくる。これは恐怖です。防ぐ方法はキツネからエキノコックスを追い出すことしかない。エキノコックスは虫ですから、キツネに虫下しを飲ませればいいと気づいて、定期的に虫下しを撒くことになりました。その結果、発生率は2006年から限りなくゼロです。だから、小清水の



キツネは全く問題ないということだけは、我々は保証できる。ここ

で初めて、キツネとの共存の道を見いだしたのです。

### 残すべきところ

最近感じているのは、自然保護運動に科学者が入りすぎているのではないかということです。残すべきところは、我々の時代には、多くは遊び育った故郷だった。今

はそうではなくて、貴重な動植物がいるかどうかを重視する。「オホーツクの村」には、僕らが始めなかったら、今でも存在しなかっただろうものがたくさんある。時間というのは、とてもありがたいもので、放っておくだけで、やがて鳥が来て、糞を落とし、今まで全くなかったものが次から次へと登場してくる。そこで、我々は自然を消

費する側ではなくて、創る側になることに目覚めるわけです。価値のないところは残さないでいいなんていう、単純なものではないと思っています。

プロフィール 竹田津 実(たけたづ みのる)  
大学卒業後、北海道小清水町の農業共済組合に獣医師として着任。キタキツネの生態調査を始める傍ら、傷ついた野生動物の保護、治療、リハビリに取り組み。昨年リニューアル上映された映画「キタキツネ物語」の企画・動物監督をはじめ、テレビの動物番組の監督などを手がけながら、写真家、エッセイストとしても活躍。  
また、小清水町において、日本のナショナル・トラストの先駆けとして知られる「オホーツクの村」の活動に取り組んでいる。  
主な著書に『子ぎつねヘレンが残したもの』(偕成社) [※『子ぎつねヘレン』として2006年映画化]、『えぞ王国 写真北海道動物記』(新潮社)、『野生からの伝言』(集英社)、『どうぶつさいばんライオンのしごと』(偕成社)、写真集『アフリカのちの旅の物語』(平凡社)など

話題提供 1



台湾ナショナルトラスト理事長  
国立清華大学教授

王 俊秀 氏

今回9名の代表団で来日し、トトロの森や鎌倉の御谷の森を視察しました。本大会ではご参加の皆様と交流を深めることができたいと思っています。

話題提供 1



彰化環盟理事長

蔡 嘉陽 氏

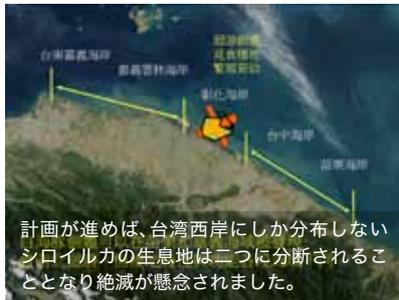
### 台湾の「シロイルカ」を守る 取り組みについて

台湾中西部の彰化縣海岸に4,000haを超える干潟を埋め立て、石油化学工場を建設する計画が持ち上がったのは2008年のことでした。対象地には台湾最大の干潟があり、環境アセスメントでは、絶滅の危機に瀕したシロイルカ(種名:シナウスイロイルカ)が66頭確認されました。シロイルカの回遊路を確保し、計画に抵抗するため対象地の一部、200haを購入するナショナル・トラストを開始しました。

多くの人々が賛同し、特に子供たちや若い世代が積極的に参加する全土的な運動となりました。2011年、馬総統にシロイルカの

# 台湾の ナショナル・トラストについて

逐次通訳: 柏木みどり氏



危機を説明し、保全への理解を求めました。視察した総統は、干潟はイルカを守ることに、子供たちの未来にとっても重要であると認識し、計画の中止を決定しました。従来の台湾の環境保護は政府の指示によるものでしたが、国民から政府へ働きかけ自然を守った事例となりました。

話題提供 1



八頭里仁協会理事長

戴 秀芬 氏

### ナショナル・トラストによる 駅舎保全の取り組みについて

新北投の駅舎再現は台湾初の文化トラストです。古くから温泉地として栄えた北投には1901年に鉄道が敷かれ1916年に新北投駅が建設されました。温泉地の衰退により役目を終えた駅舎は1989年に取り壊しの危機にありましたが、台湾民族村というテーマパークへ1円で売却され彰化縣へ移築

し保存されてきました。しかし、1999年に経営悪化により施設売却が始まりました。ヒノキ建築の駅舎は日本統治時代の代表的建築物の一つで、その取り壊しを聞きつけた子供たちの、残したいという願いから活動を開始しました。

2007年7月、北投の地へ駅舎を取り戻すナショナル・トラスト基金を創設しました。多くの賛同者を集めましたが売却を拒否され、2013年3月16日、駅舎を返さなければ新しいものを作ると通告しました。その結果、8月8日に日英資本公社が建物を購入し寄付するという形で戻ることになりました。お金を集めるのは簡単ですが、人の心に想いを残すのは大変なことです。一人一人の寄付で再建される駅舎は、ふるさとや国を愛する気持ちを育みます。これからも人々の考えを変えていくような活動を続けていきます。



新北投の駅舎は、移築のための解体を終え、今年の2月22日、25年ぶりにふるさと北投の地へ戻ってきました。



税理士・行政書士  
早坂 毅 氏

2015年1月より相続税改正により、基礎控除額が下がり、最高税率が上昇します。消費税と違い、かけこみ相続はできませんので対処が難しいものです。課税対象は、預金、土地、建物、有価証券等ですが、納付は現金です。有価証券や土地建物、山林は現金化が難しく納税原資になりません。都内に土地建物や山林がある場合、存外に評価額が高く相続税が発生するケースがあります。また、申告期限は10ヶ月ですが、財産一覧などなければ、一つひとつ調べていく必要があり時間を要します。期限内に申告できても正確かどうか定かではありません。



そこで、一度お手持ちの資産を見直すことをお勧めします。国や公益団体に寄付をすれば、その分は非課税となります。ただし、寄付を考えた場合でも団体により受け入れ可能資産は異なりますし、土地等は、調査から始まり登記完了まで数ヶ月間の猶予がなければ寄付は難しい点、注意が必要です。

ビアトリクス・ポターが相続で

# 税控除で資産を次世代のために活かす方法

ヒルトップの土地建物を英国ナショナルトラストに寄付したことは有名です。変わった例では、ボーイスカウトアメリカ連盟が515km<sup>2</sup>のキャンプ場を生前贈与で受けた際、運営費の確保としてテナント収益のあるビルも併せて寄付された事例もあります。米国では全体の7.3%の寄付が遺贈によるもので、英国の動物保護団体の中には年間収入の半分が遺贈という例もあります。

日本でも、生涯未婚率の増加など相続人がいない人たちが増えており、相続や遺贈により公益的な活動へ財産を残す人が増えています。例えば、ブッダ基金は1.4億円の相続や遺贈を受けていますし、高木仁三郎市民科学基金も毎年遺贈により1,000万円以上の収入を得ています。

では遺贈する場合、誰に相談しているのか。実はお医者さんやお坊さん、ケアマネジャーさんなどに相談しているケースが多いです。これまでは、自治体やユニセフなど大手へ寄付が集まっていましたが、社会的な課題は様々で、



ナショナル・トラスト協会の遺贈をお考えの方向けのパンフレットには、受け入れ可能な資産から、遺贈の仕方などの情報がまとまっています。

それに呼応し認定法人や公益法人も増えています。例えば豊かな山林や原野などは、ナショナル・トラストへ寄付し美しい日本を残していく、というのも一考の価値があるのではないのでしょうか。

話題提供 3



公益社団法人  
日本ナショナル・トラスト協会 事務局長  
**関 健志**

当協会は、トラスト団体がない地域でのトラスト地取得や、土地寄付の全国窓口として役割を果たしていきたいと考え、2007年よりトラスト地の取得を開始しました。近年は特に、日本の絶滅危惧種を守るトラストに力を入れており、今回のキャンペーンもその一環です。

奄美大島は約8割が森に覆われ、野生生物の固有種が多く、豊かな自然が残る島ですが、その森の土地所有を見てみると、国有林は6%しかなく民有林が94%となっています。

世界で奄美大島と徳之島だけに生息するアマミノクロウサギも、



森の乱開発等によって生息地が破壊され絶滅の危機にあります。現在、世界自然遺産登録の動きがある中で、私たち民間でもこの豊かな森を国民の財産として守ることが必要と考え、昨年、売りに出ている瀬戸内町内の森、約100haを取得してトラスト地にしました。

昨年3月から、この土地を取得するのに必要な2,000万円を目標として、アマミノクロウサギをシ

# アマミノクロウサギ・トラスト キャンペーン結果報告

ンボルとした全国的な寄付キャンペーンを実施したところ、5ヶ月で目標金額が集まりました。一口1,000円からの「みんなの森・コース」の他、28の各区画面積に

セージが感じられます。12月には、森の名前が刻まれた看板を林道沿いのトラスト地に設置しました。

日本には、トラストで守るべき豊かな自然がまだまだたくさんあります。当協会ではこのようなトラス



トラスト地に設置された看板

者を募り、森の名前がつけられる「一筆オーナー・コース」を設定し、18の企業と個人の皆様にご参加いただきました。命名された森の名前を見ると、お孫さんの名前や「ゆめの森」、「希望の森」など、将来世代に豊かな自然を引き継ぎたいという寄付者の皆様のメッ

ト・キャンペーンを次々と展開していくため、候補地の情報を集めているところです。近いうちに新しい企画をご案内したいと思しますので、そのときはぜひご協力をお願いします。



特別天然記念物のアマミノクロウサギ 写真:常田守

閉会挨拶



公益社団法人  
日本ナショナル・トラスト協会 副会長  
**漆畑 信昭**

おかげさまでトラスト地の取得も着実に進んでおり、当協会ではこれまでに26か所255haを取得

いたしました。

日本には自然を守る人も大勢いますが、破壊する人も大勢います。国や自治体、個人がきちんと守れば、トラスト活動は必要ないのですが、現実には、土地を取得しないと自然を守ることができません。もう一度、この原点に立ち返り、土地を守り続けることが私たちの使命です。平家物語に登場する武将、薩摩守忠度が、藤原俊成に和歌を託して都落ちするときの言葉

を借りて言うと「前途ほど遠し…」ですが、あきらめてはいけません。あきらめずに続ければ、必ずできる。そのような信念をもって進んでください。

本日は、多くの皆様にご出席いただき、誠にありがとうございます。自然を守るには、企業の皆様をはじめ、多くの方々のご支援が必要となりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。



 **Amway Nature Center**



美しさを創り出すことで、  
生活・文化の向上に貢献します

株式会社 日本色材工業研究所



第二部

交流会

第2部の交流会は、各地のトラスト団体の関係者や協賛企業、支援者の皆様など約50名の参加がありました。冒頭、今年2月で活動40周年を迎えた「天神崎の自然を大切にする会」の初山代表理事よりご挨拶をいただきました。また、各地の団体からの近況報告をや、協賛企業から参加して下さった方々のスピーチが続きました。参加者同士の情報交換や交流も活発に行われ、盛会の内に終了しました。



設立40周年にあたってのご挨拶  
(公財)天神崎の自然を大切にする会  
初山 丈夫 代表理事

当会は、和歌山県田辺市・天神崎の海岸林を別荘地に開発する計画が持ち上がったのをきっかけに、市民有志によって1974年に設立され、今年で40年目を迎えました。

「大切にする会」という名称には、対立するのではなく、業者や行政にも理解を求め、力を合せて天神崎を大切にしようという思いが込められています。

現在までに保全目標面積の46.3%に当たる8.3haを取得しました。これからも、会員の増強と共に、他の自然保護団体との協力・連携を深め、ナショナル・トラスト活動の意義を伝えていきたいと思っています。

10

- 近況報告をいただいた団体(50音順)
- (特非)ウエットランド中池見
- (公財)柿田川みどりのトラスト
- (公財)かながわトラストみどり財団
- (公財)鎌倉風致保存会
- (公財)グリーントラストうつのみや
- (公財)埼玉県生態系保護協会
- (一財)世田谷トラストまちづくり
- (公財)トトロのふるさと基金
- (特非)ナショナルトラスト・チョコナイ
- (特非)日本景観フォーラム
- はちのへ小さな浜の会



# 信託で守る ナショナル・トラスト

信託とは、英語で“トラスト”——  
三井住友信託銀行では  
信託を通じ、トラスト地の購入を支援しています。

守る、  
創る、  
思いやる、  
ビルへ。



野坂徹夫：画

災害から人々の暮らしを守る。  
エネルギーを創り、分けあう。  
都市を、そして地球を思いやる。  
これからのビルはこうじゃないとね。

想いをかたちに 未来へつなぐ

 **TAKENAKA**